

### ○学部・研究科の理念

薬学は医薬品の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学であり、諸基礎科学の統合を基盤とする学際融合学問領域と位置づけられる。本学部・研究科は諸学問領域の統合と演繹を通じて、創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康と社会の発展に貢献することを目標とする。

### ○薬学研究科

#### 【教育理念】

創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、薬学の学修・研究を通じて、創薬研究者と先端医療を担う人材を育成することによって、人類の健康と社会の発展に貢献することを理念とする。

#### 【人材養成の目的】

生命倫理を基盤に、薬学の基礎となる自然科学の諸学問と薬学固有の学問に関する知識と技術および、研究者、医療人として適正な態度を修得し、独創的な創薬研究を遂行しうる薬学研究者、高度な先端医療を担う人材の育成を目指す。

#### （創発医薬科学専攻）

#### 【理念】

薬学、自然科学、情報科学などの学問融合を基盤とする学修・研究を通じて、新薬創出にむけた医薬科学領域を開拓し、創発的薬学イノベーションの推進を担う研究人材を育成することによって、人類の健康と社会の発展に貢献することを理念とする。

#### 【人材養成の目的】

薬学関連の基礎科学を基盤に、医薬科学を中心とする学問融合・未踏学際領域開拓による挑戦的研究に重点を置いた研究を実践し、医薬科学および関連分野の学問に関する知識と技能、科学的問題の発見・解決能力の涵養を通じて、独創的かつ野心的な医薬科学研究を開拓しうる薬科学研究者、教育者として求められる資質と能力を有する人材の育成を目指す。

### ○ディプロマ・ポリシー

#### （創発医薬科学専攻）

薬学研究科は、諸学問領域の統合と演繹を通じて世界に例を見ない創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康の進展と社会の発展に大きく貢献することを目標としています。本研究科では、原則として5年以上在学して研究指導を受け、薬学研究科が教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して35単位以上を修得し、かつ独創的研究に基づく博士論文を提出し所定の試験に合格することを通して、次に掲げる目標を達成した学生に、博士（薬科学）の学位を授与します。なお、学修・研究についても著しい進展が認められる者については、3年以上の在学をもって創発医薬科学専攻を修了することができます。また、特別の事情がある場合には、2年以上在学して研究科の定める履修方法に従い30単位以上を修得し、修士論文相当の論文を提出し所定の試験に合格した者には、修士（薬科学）の学位を授与することがあります。

1. 高度な基礎科学の理解及び医薬科学の体系的・先端的知識と技能を備え、それらを柔軟に活用する能力

を身につけている。

2. 医薬科学に関する深い学識に基づき、独自の発想力を発揮して研究を実施し、新たな知的価値を創出することができる。
3. 科学・技術および広汎な社会的課題について医薬科学の知識を総合して複数の解決策を提示でき、また、世界が将来直面する可能性のある課題についても、それを把握・予測し、科学的根拠に基づいて、柔軟かつ的確に対応できる高度な解決力を有している。
4. 医薬科学の意義と重要性を理解し、高い倫理性をもって、その発展と応用に寄与することを目指した行動を通して、人や自然との調和ある共存に貢献できる。
5. 幅広い視野と教養を身につけ、医薬科学に関する研究成果を世界に向けて発信・説明できる高い能力を有している。

## ○カリキュラム・ポリシー

### (創発医薬科学専攻)

創発医薬科学専攻一貫制博士課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、特論、演習、グループ型学習を適切に組み合わせた授業科目を開講するとともに、博士論文作成のための研究指導を行います。教育課程については、カリキュラムマップを用いてその体系性や構造を明示しています。

教育・学修方法、学修成果の評価については以下のように方針を定めます。

#### 1. 教育・学修方法

1. 特論では、薬学領域に捉われず多様な学問領域での学びや交流を適宜組み合わせた教育を提供することで、様々な事情や関係を俯瞰的に捉えて知識を統合し、異分野融合による創造性の高い研究を発想、実践するための素養を修得します。
2. 演習では、早い段階から主体的に研究を立案して提案する能力を養うとともに、自己開発を目的とした長期の留学やインターンシップも可能な、柔軟で時間的余裕のあるプログラムを提供することで、独立心旺盛で即戦力となる、高い企画・マネジメント能力を身につけます。
3. 高度なコミュニケーション能力を要求するグループ型学習では、将来の創薬研究リーダー、薬学教育者として適正なチーム構成力、リーダーシップ、教育指導能力を醸成します。
4. 研究指導では、医薬科学の発展に貢献する専門的で独創的かつ創発的な研究を立案、計画、実践し、学術論文や学会発表を通じて社会に成果を発表し還元します。権威ある学術雑誌に査読付き原著論文を投稿できる段階まで研究を進めることが求められます。

#### 2. 学修成果の評価

各科目の評価基準・方法はシラバスに示されています。在学期間中に 2 回の QE (PQE (Preliminary Qualifying Examination) 及び SQE (Secondary Qualifying Examination)) を実施します。PQE では、博士学位研究のための研究提案について書面審査および口頭試験により評価されます。SQE では、学位論文発表を行う準備段階が十分に整っているかを確認します。博士論文では、当該分野における学術的意義・新規性と創造性・研究によってもたらされた知見の科学的検証または証明の妥当性等を有する論文をとりまとめて発表し、3 名以上の調査委員により論文審査と口頭試問によって評価されます。

## ○学位授与基準

博士学位論文の審査にあたっては、学位論文が当該分野における学術的意義、新規性と創造性、研究によってもたらされた知見の科学的検証または証明の妥当性などを有しているかどうか、ならびに学位申請者が、研究企画力および研究遂行力、論理的説明能力、関連研究領域における高度で幅広い専門的知識、学術研究における高い倫理性等を有しているかどうかを基に審査する。